

小田原のために役に立てることが、私にとっての仕事のやりがい

工務課 西尾優貴（土木技術 平成16年度採用）

小田原市役所を志望したきっかけ

大学時代に県外で一人暮らしをするうちに、自分が育った小田原の良さを再認識し、今度は自分がそこに住む多くの人たちのために役に立てることはないかと考えるようになり、小田原市役所ならば自分の思いが直接仕事に活かせるのではないかと思います。

現在の仕事内容

入庁後は、道路の建設や維持管理の部署に、その後水道の配水管の新設や入替を行う部署に異動しました。

主に道路や配水管の設計及び現場監督として工事現場の管理を行っています。また、国庫補助金の要望や工事に関する市民の皆さまとの調整など、土木工事について総合的に幅広く関わる仕事を行っています。



仕事のやりがい



道路や水道の工事と一口に言っても、新しいものを造ったり、古いものを直したりと様々な種類のものがあり、市民の皆様からも「道路が広くなって良かった」といった意見ばかりではなく、「税金の無駄遣いではないか」「もっとほかにやるべきことがあるのではないか」など、厳しいご意見をいただくこともあります。

しかし、こうした厳しい意見こそ小田原をより良い街にするものだと考え、上司や先輩の指導を仰ぎながら一生懸命取り組んでいます。また、苦勞が多い分、達成したときには大きな充実感を感じることができ、それが自分の成長に繋がっていると思っています。特に、工事を行った近隣に住んでいる方から「地元が良くなって感謝している」とお礼の言葉をいただいたときには、自分にとっても大きな喜びとなりました。このように地元小田原のために役に立てることが、私にとって仕事のやりがいを感じる時です。

受験生の皆さんへのメッセージ

地方自治体、特に市町村は、福祉、教育、道路など市民の皆さまの生活に直接関わり、またその関わり方が多岐に渡るのが特徴です。様々な職種や立場はありますが、より良いまちづくりを目指すといった意味では、職員全員が同じ目的のために働いていると言えます。この目的を実現するためには、セクション間での調整やスムーズな情報交換が重要となりますが、小田原市役所は職員同士の交流も多く、とても風通しの良い職場だと感じています。

また、今後は地域資源の活用や小田原駅周辺の整備など、より良いまちづくりのためにやらなければならないことも多いので、積極的にまちづくりに関わりたい人には、特におすすめの職場ですので、受験者の皆さん是非チャレンジしてください。

上司から一言

建設部や水道局では大雨や台風、地震災害などがあれば時間外勤務や徹夜は当然のこと、水道局においてはさらに工事に伴う夜間の断水作業などがあり、毎日に変化に富んだ業務です。

そして、それらの対応の良し悪しが市民の皆さんや都市活動に大きく影響するため、早急に的確な判断力と実行力を必要とします。西尾君は奉職して7年ではありますが、市民の皆さんと直接関わる業務の中で、常日頃から問題意識を持ち、解決に向けて努力しています。